

2019年5月27日

あおぞら投信株式会社

## 「毎日の 変化は目には 見えねども 月日の向こうに 新たなアイデア」

17世紀の時代に新たな発想や発明が数多く表れた理由は様々ありますが、最大の理由は飢餓にあったという説があります。食うに困るほどのところからの発想は、生き物としての最大の危機を乗り切るために最大のエネルギーが発露するのではないのでしょうか。その意味では、普通に生活しているようでは新たな発想は生まれえないとも言えるかもしれません。

日本経済は第二次世界大戦後10年を経て高度成長の時代に入りました。その勢いは1955年から1968年まで年平均10.1%という驚異的なスピードでの経済成長となったのです。この高成長はそれまでの世界では前例のないものであり、今もって他の国では真似の出来ないものなのです。ただし、その後1980年代の後半にはバブルが崩壊、大きな方向転換をすべき時を迎えたのです。総論は改革の必要性に合意するものの、各論となると既得権益への執着が蔓延(はびこ)り、戦後システムの改革は常に後手に廻り続けたのです。このような中、厳しい経済環境が続く、さらに21世紀に入ってから世界的な金融危機を経験した後に、ようやく未曾有の事態に対して、企業の中には新たな考え方や行動が数多く見られるようになりました。IoT(Internet of Things)\*など若者の活躍も増えており、戦後経済の覇者を追うのではなく、未来志向の動きが展開しているのだと思います。既存の枠の中に収まることなく、柔軟な発想を実現へと進める人の活躍こそが、現代の発明の力なのです。モノを持つことに価値があるのではなく、どのようなコトをダレとどのように体験していくのか、といったことに価値が見出されていく時代なのだと考えるのです。

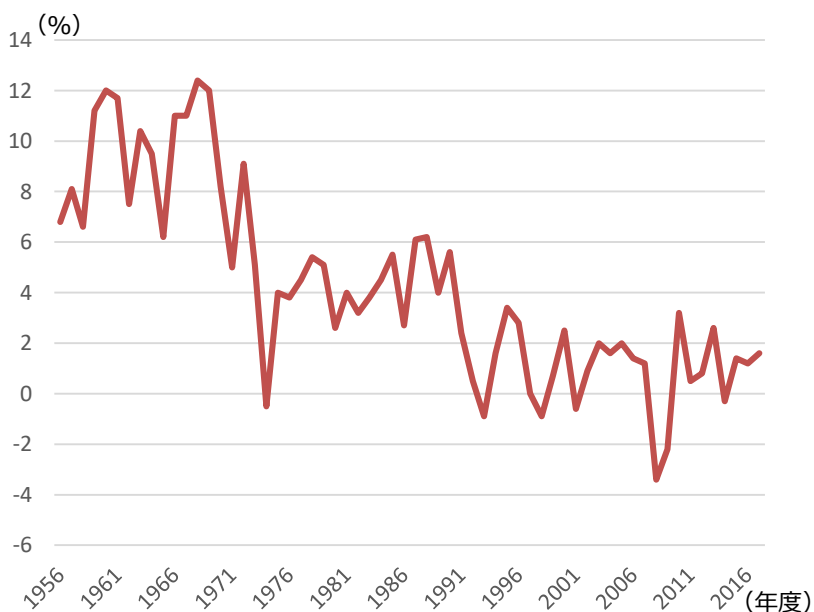
\*IoT(Internet of Things) : パソコンやサーバーといったコンピューター以外の多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。

柳谷俊郎

### 17世紀の主な科学史

西暦(年)	主な発見等(発見者)
1604	落体の法則(ガリレオ)
1608	望遠鏡の発明(リッペルスハイ)
1609	惑星運動の法則(ケプラー)
1609	望遠鏡による天体を観測(ガリレオ)
1621	光の屈折の法則(スネルの法則)
1632	ガリレオ「天文対話」。地動説を擁護したとして宗教裁判にかけられる。
1643	大気圧の測定(トリチェリ)
1648	パスカルの原理
1655	光のスペクトル実験(ニュートン)
1657	振り子時計の製作(ホイヘンス)
1662	ボイルの法則
1666	光のスペクトル発見(ニュートン)
1668	反射望遠鏡の発明(ニュートン)
1669	光の微粒子説(ニュートン)
1673	赤血球の発見(レーウエンフック)
1675	光速測定(レーマー: 秒速約22万km)
1678	光の波動説(ホイヘンス)
1687	ニュートン『プリンキピア』。万有引力の法則、運動の3法則

### 日本の経済成長率(前年比、1956年度~2017年度)



出所: 平成30年度年次経済財政報告(内閣府)のデータおよび各種報道を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号: あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス: <http://www.aozora-im.co.jp/>